

病院図書室の目録業務についての考察

—NACSIS-CAT 図書書誌データ作成件数を中心に—

国立精神・神経医療研究センター図書館

下山 朋幸

1. 研究の背景と目的

図書館に目録業務はコピーカタログが主流となった現在、書誌データを一から作成する目録業務については、大学図書館では現在でも行っているとされるものの、「公共図書館や学校図書館では不要となりつつある」(注 1)とされる。しかしながら病院図書室における状況については明らかにされていない。

本研究では、病院図書室の目録業務について、国立情報学研究所「目録所在情報サービス」(通称:NACSIS-CAT、以下同)における図書書誌データ作成件数を元に分析する。

2. 先行研究

医中誌 Web および CiNii Research にて「病院 図書室(図書館) 目録」で検索を行ったところ、結果のほとんどは「目録」を所蔵目録、あるいは相互利用を主な目的とした総合目録を扱ったものであり、書誌データの作成・編集についての研究を見つけることはできなかった。

3. 研究の手法

毎年度公開されている NACSIS-CAT の機関単位の新規書誌データ作成件数の内、病院図書室、および医療系機関における件数を時系列的に分析する。この手法を用いる理由としては、NACSIS-CAT は主たる参加機関は大学図書館が中心であるが病院図書室でも参加しているところがあること、また参加機関が書誌データを作成し共有する共同分担入力採用している我が国で唯一の総合目録データベースであり、機関ごとの作成件数が公表されているからである。

当日の発表では、主に病院図書室における新規書誌データの件数の数値を分析し、その傾向について報告する。

注

1)高野真理子「コラム：目録技術に未来はあるか」, 情報の科学と技術 67 (8), 2017